

2026 WORLD ROWING CHAMPIONSHIPS

REPORT 6 (8/29)

8月29日(土)

朝から降っていた雨もやんだところで、M1x(櫻間 達也 選手(NTT東日本))のFinalDが行われました。この日も当日の朝に、気象条件を考慮し前ラウンドの順位に基づいたレーンの再割り当てが行われました。M1x(櫻間 達也 選手(NTT東日本))はMaxヘッドコーチ等に見送られ、スタート地点に向かいました。



M1x Final D

レーンの再割り当てにより、1レーンに入った日本。スタートでクロアチアとイラクが反応よく飛び出す、すぐにスペインが前に出る。スペインがレースを引っ張り、クロアチア、イラク、カナダ、日本、ウズベキスタンと続くが、日本は落ち着いてペースを作っていく。500mの通過は、カナダ、スペイン、日本、イラク、クロアチアがほぼ並ぶようにして通過。日本は1位カナダから0.25秒差ながら3位。第2クォーターに入ると、日本とカナダが抜け出し始め暫く並走。ただ、第2クォーター後半になるとカナダが徐々に伸び始め1000mの通過は1位カナダ、2.19秒差で2位日本、3位スペインから少し遅れイラク、クロアチア、ウズベキスタンと続く。

第3クォーター、日本は必死にカナダを追うが、カナダはペースを崩さずその差は思いとは裏腹に少しずつ広がり1500mでは4.09秒差となる。ラストクォーター、日本は早めのタイミングでペースアップを図るがカナダとの差が詰まることはなくそのままゴールを迎える。1位カナダ、続いて日本、スペイン、クロアチア、イラク、ウズベキスタンの順となり、日本は全体20位(37クルー中)で大会を終えることとなった。



一番手前がM1x櫻間選手(NTT東日本)。奥に向かってスペイン、イラク、ウズベキスタン。



ゴール前、カナダを追いつく
パートをかけるM1x桜間選手
(NTT東日本)

M1xのFinal Dをもって、2026年世界選手権日本代表チームのレースは全て終了いたしました。7時間の時差の中、ご声援をいただいた方々、また現地でご声援をいただいた方々、皆様のご声援が日本代表チームの力となり、選手たちは世界最高峰の舞台で力を発揮することができました。本当にありがとうございました。

これからも日本ボート界が丸となって世界と戦えるよう、日本代表チームは挑戦を続けます。まずは、32年ぶりの自国開催となるアジア競技大会(9月20日(日)～25日(金):長良川国際レガッタコース)になりますので、引き続きご声援をいただきたくお願いいたします。

最後に今回の遠征にご協力いただいた全ての皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

大会結果

◎ W2- 米川 志保(トヨタ自動車)、高野 晃帆(関西電力) Fina C 6着 全体18位(18か国中)

◎ M1x 桜間 達也(NTT東日本) Final D 2位 全体20位(37か国中)

「ご声援ありがとうございました」

～2026年世界選手権日本代表選手団一同～



左より、野村 幸史(トレーナー)、大戸 淳之介(コーチ)、M1x 桜間 達也(NTT東日本)、W2- 米川 志保(トヨタ自動車)、W2- 高野 晃帆(関西電力)、Max Rowan(ヘッドコーチ)、森山 修(チームリーダー)